

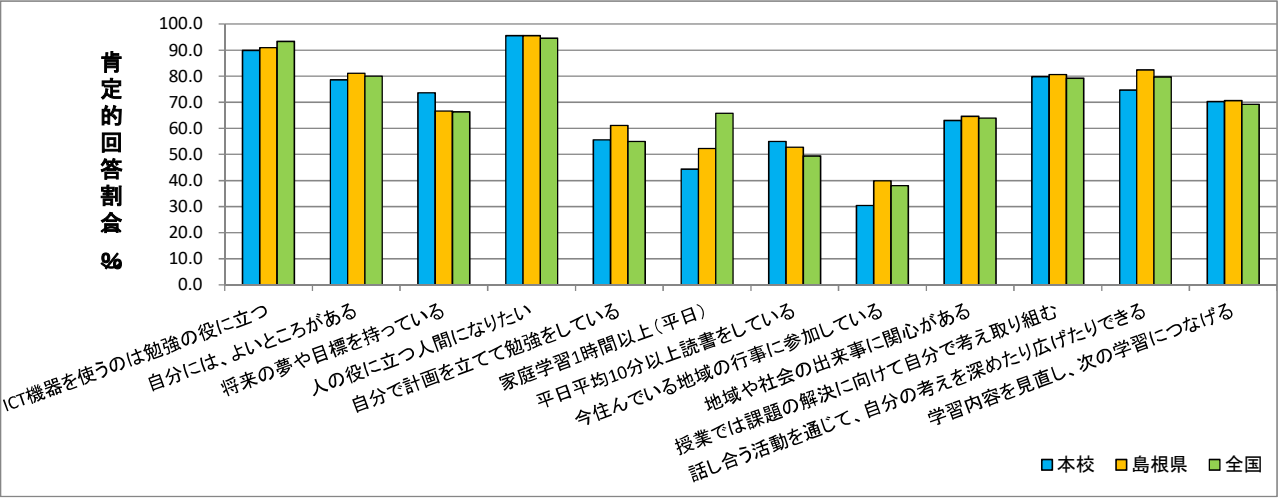
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える力はある。 ●読み手の立場に立って、叙述の仕方を考え、文章を整える力が弱い。	・推敲する経験の少なさが原因と考えられる。作文の添削を帯単元として入れたり、言葉の学習で言葉選びをしたり、意識的に取り組めるようにする。
数学	○基本的な計算問題の正答率は県平均より高い。 ○関数の領域も比較的に正答率がよい。 ●データの活用の正答率が低い。	・タブレットドリル等を活用して、基礎的な技能処理の向上を図る。 ・データ活用を取り扱った内容を復習する機会を増やす。
英語	○日常的话题について書かれた短い文章を読んで、要点を捉えることができる。 ●社会的な話題について書かれた文章について、概要や要点を捉えることが苦手である。 ●既習の文法事項を使って、英文を正確に書く力が定着していない。	・既習の文法事項を使って英文を正確に書く練習を多く取り入れる。 ・社会的な話題について書かれた文章について、概要や要点を捉える問題を解く時間を多く設定する。

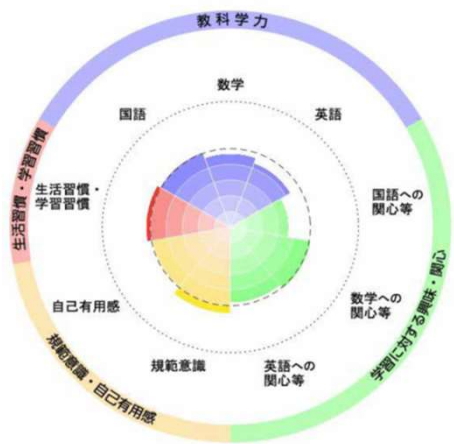
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○学習内容の復習をすることや、他の学習に関連付けようとする意欲がある。 ○他者に対して思いやりをもっている。 ●家庭学習が習慣化していない。 ●自主的に学習計画を立てるのが難しい。	・キャリア教育と結びつけながら内的動機づけを行うことにより家庭学習の習慣化を図る。 ・ICT機器やタブレットドリルの活用を促すなどの、さまざまな学習方法の提示を積極的に行う。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・道徳教育の重点項目を「B-(9)相互理解、寛容」「C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実」とし、協働しながら学校生活を向上させていくことを目指す。
・協働的な学びの場面を積極的に活用し、生徒達が相互に学習意欲を高め合うことをねらう。

【受検者数】
178 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。